

陸上交通アンケート結果等について

●江田島市の陸上交通（路線バス、おれんじ号等）を取り巻く現状

人口・高齢化
<ul style="list-style-type: none"> ・総人口 26,189 人 ・高齢化率 38.0%（江田島 35.3%、能美 37.3%、沖美 43.6%、大柿 39.5%） <p>※いずれも平成 24 年 9 月時点の住民基本台帳データ（江田島市）を集計</p>
公共交通サービス
<p><u>サービスの現状</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小用～ゆめタウン前～大柿高校前を幹線とし、主要な道路に路線バスが運行 ・江田島北部や沖美には、平成 22 年 10 月より、少ない需要に効率的に対応するため、おれんじ号（予約型乗合タクシー）が運行 <p><u>利用現状</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バス 631,805 人（平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月） ・おれんじ号・大須朝夕便 6,611 人（平成 24 年 4 月～12 月） <p><u>市民の移動手段確保に係る行政負担の状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度は総額 48,612 千円（路線バス補助 43,150 千円、おれんじ号補助 5,462 千円）

●江田島市の公共交通に関するアンケート調査（主に陸上交通を対象とした調査）の結果概要

回答者の属性（図 8）
<ul style="list-style-type: none"> ・居住地域別のサンプル割合は、4 地域（江田島、能美、沖美、大柿）で概ね同程度 ・年齢は 60 歳以上が 64% ・免許の保有状況は、「自動車免許あり」が 67%である一方、「なし」が 28% ・世帯の自動車保有状況は、「自分で自由に使える車がある」が 57%である一方、「世帯に車はない」が 14%
通勤・通学の状況
<p><u>勤務先の所在地（図 15）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域とも、自地域内の勤務先に通勤する人が多い一方、広島市や呉市への通勤も多く見られる <p><u>通学先の所在地（図 21）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンプル数が少ないものの、広島市や呉市への通学が多く見られる <p><u>通勤・通学で普段利用する栈橋までの交通手段（図 32）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に「自動車（自分で運転）」を利用する割合が高い ・路線バスの利便性が比較的高い小用では、「路線バス」を利用する割合が 29%と他の栈橋に比べて高い

食料品や日用品の買物の状況
<u>主に買物している商業施設（図 34）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どの地域においても「ゆめタウン江田島（大柿町飛渡瀬）」を利用する割合が高い
<u>主に買物している商業施設に行く際に普段利用する交通手段（図 44）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どの商業施設においても「自動車（自分で運転）」の割合が非常に高く、「路線バス」や「おれんじ号」といった公共交通の割合は比較的低い
<u>公共交通の運行を希望する商業施設（図 45）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どの地域においても「ゆめタウン江田島（大柿町飛渡瀬）」を希望する割合が高い
病院・医院等の通院の状況
<u>主に通院している医療機関（図 46）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内に総合病院がなく、棧橋周辺に比較的人口が集中する能美・沖美については、広島市内の医療機関を利用する割合が高い ・呉市に隣接する大柿については、呉市内の医療機関を利用する割合が高い
<u>普段利用する主に通院している医療機関までの交通手段（図 56）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どの医療機関においても「自動車（自分で運転）」の割合が高い ・大柿の医療機関については「自動車（家族や知人が運転）」の割合が他の医療機関より比較的高い
<u>公共交通の運行を希望する医療機関（図 57）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・どの地域においても大柿の医療機関を希望する割合が高い
江田島市の公共交通問題への関心等
<u>市の公共交通政策に関する意向（図 59）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「現状並みの市の負担で、適宜改善を加えながら現状程度のサービスを維持するべき」の割合が72%と最も高い
<u>地域の公共交通を残すための利用意向（図 60）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に公共交通を残すための利用意向は、「利用しようと思った」と「利用しようとは思わなかった」の割合が半々程度
公共交通の利用状況や満足度
<u>平成 24 年 4 月のダイヤ改正前後の使い勝手の変化（図 61）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の公共交通利用者の回答では、「便利になった」が7%である一方、「不便になった」が34%であり、沖美では「不便になった」の割合が55%、能美では47%と高い
<u>路線バスの満足度（図 65）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に沖美の満足度が最も低く、次いで能美が低い ・沖美の満足度について、特に「①1日の運行便数」や「②運行ダイヤ」に関する満足度が低い
<u>おれんじ号の満足度（図 66）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・沖美町の満足度を見ると、「⑩運行日数」や「⑪1日の運行便数」「⑫運行ダイヤ」「⑬目的地の設定や運行経路」の満足度が低い一方、「⑭電話での予約受付のスムーズさ」「⑯運転手の接遇マナー」の満足度は高い



●江田島市の陸上交通（路線バス、おれんじ号等）の主な課題

○サービスの地域間格差の是正

利便性が低い沖美地域を中心としたサービス改善検討

○行政負担増加の抑制

現状並みの行政負担でより効果的・効率的なサービスを提供

○利用促進

公共交通を残すためには利用意向が増加することが必要であることから、向上に繋がる方策を検討